

平成 30 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 31 年 3 月 18 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学類・博士 2 年

申 請 者 名 小山貴之

| | |
|------------------------|---|
| 助成事業の区分 (該当するものに○印) | 研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・○学会参加) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業) |
| 事業名 | 酵素工学研究会第 80 回講演会 |
| 事業実施期間 | 平成 30 年 11 月 16 日 ～ 平成 30 年 11 月 16 日 |
| 成果の概要 | <p>東京工大（大岡山キャンパス）で開催された酵素工学研究会第 80 回講演会において、研究成果の一部を下記のタイトルにてポスター発表した。</p> <p>発表タイトル：コリン型リゾプラズマローゲン特異的ホスホリパーゼ D の基質認識メカニズムの推定と基質特異性改変</p> <p>発表者：小山貴之、河原光希（4 年生）、酒瀬川信一（旭化成ファーマ）、村山和隆（東北大院医工）、杉森大助（指導教員）</p> <p>本発表では、アルツハイマー型認知症の初期段階である軽度認知機能障害を早期発見するための体外臨床診断薬用として期待される酵素「コリン型リゾプラズマローゲン特異的ホスホリパーゼ D」のアミノ酸を別のアミノ酸に置換することで、基質特異性改変と基質認識メカニズム解明を目指した研究である。本発表では、活性中心付近のアミノ酸を置換した結果、触媒活性を一切低下させずに基質特異性を大幅に改変させることに成功したことについて報告し、また本酵素の基質認識における活性中心付近の各アミノ酸の役割について得られた知見を発表した。</p> |